

地域と農政を結ぶ

Vol.
35

令和8年9月

- 棚田特集：浜松市で棚田サミットが開催されます
久留女木の棚田、大栗安の棚田、白檀の棚田
- 生産現場での取組をご紹介します
異業種連携による静岡茶輸出の取組
自社の水産加工で発生した魚粉を使ったお米づくり
「みえるらべる」の研修会を開催しました
- 県内で新規就農した方をご紹介します
富士山の恵み、そのまま身体に
2カ国での栽培に挑戦しています
富士山と水田の美しさが魅力
「新規就農者の部屋」ホームページの紹介
- 統計の部屋
令和6年市町村別農業産出額について
令和8年産一番茶の摘採面積、生葉収穫量及び
荒茶生産量（主産県）
- 令和9年度農林水産関係予算概算要求の主な内容
- 花と緑のあふれる暮らしを

関東農政局 静岡県拠点 地方参事官室
農林水産省

\浜松市で棚田サミットが開催されます！/

令和8年11月14日(土)・15日(日)に第31回全国棚田(千枚田)サミットが浜松市(メイン会場・アクトシティ浜松)で開催されます。初日は、シンポジウム及び分科会が開催され、2日目は、エクスカージョンとして9コースが用意されています。その行き先となる浜松市の3つの棚田をご紹介します。

＞表紙

上段 大乗安の棚田
中段 久留女木の棚田
(画像提供:久留女木竜宮小僧の会)
下段 白檀の棚田
(画像提供:白檀棚田会)

久留女木の棚田

浜松市の浜名湖北部に位置する久留女木の棚田では、地域住民だけでなく、都市住民や企業、大学など多様な主体と連携し、棚田の景観維持や農地の管理活動に取り組んでいます。30年前には、地元の農家12戸が耕作を担っていましたが、現在は6戸の農家が耕作を続けています。また、地域外から来る11家族と3グループの外部耕作者が棚田を支える重要な担い手となっています。久留女木竜宮小僧の会では、過疎化や高齢化による担い手不足に対応するため、「サポーター制度」「体験会」「棚田塾」「外部耕作者」の4段階による参加の仕組みを整備し、関係人口の創出と担い手育成を進めています。



◀棚田サミットの
詳細はこちらから



▲久留女木の棚田の全景

現在、棚田における水稻作付面積は3ha余りで、水稻栽培を維持しながら耕作放棄地の再生に取り組んでいます。また、令和9年度末までに野菜や綿花等を作付し、果樹や花木を20本以上植栽する予定です。

大学や企業との連携も活発で、静岡文化芸術大学による地域活動・研究のほか、企業による棚田の管理、施設整備、綿花栽培・製品化など、多様な取組が棚田を支えています。

今後も地域内外の多様な人々とのつながりを広げ、持続可能な棚田の維持と地域づくりを推進していきます。



▲収穫が進む

大栗安の棚田

浜松市天竜区、標高450mの急峻な山間部に位置する大栗安の棚田では、平成12年に「大栗安棚田倶楽部」を結成し、水稻作付け面積約2.5haと茶畑からなる棚田を土地所有者の耕作者8戸及び近隣耕作者1戸で管理しています。

企業や大学との連携

一社一村しずおか運動により、建設コンサルタント企業が平成24年から田植え、稲刈り、年3回の草刈りなどの棚田保全活動に取り組んでいます。また、ボランティアや大学のサークルが田植え、棚田ウォーキングの手伝い、棚田の看板作りに協力しています。棚田のオーナー制度については、これまで耕作者自らが耕作していくという強い意向があり、導入していませんでしたが、土地所有者が耕作できなくなったこともあり、現在ではオーナー制度を活用し企業と契約しています。



▲大栗安の棚田の風景



▲茶畑と棚田

白檀(しらかし)の棚田

浜松市浜名区引佐町にある白檀の棚田は、作付面積2ha、32枚の棚田です。耕作放棄された棚田を見て、「これではいけない、なんとか昔の風景を復活できないだろうか」との思いで、地元有志16名が平成19年に「里山元気もりもり隊」を結成し、棚田復田保全活動を始めました。現在も「白檀棚田会」として、地元協力者10名程度を中心に耕作しながら、草刈りやイノシシ侵入防止柵の管理、水路の補修などの活動を月1-2回程度行っています。

企業、大学、地域との連携

一社一村しずおか運動により、建設コンサルタント会社が、令和4年度から棚田保全活動やドローン撮影で広報活動に取り組み、静岡県立農林環境専門職大学のサークルが、景観・保全活動やSNSで情報発信を行っています。また、企業、大学のほか、声掛けにより地域の方々が各日50名程参加して、田植えと稲刈りを行っています。



▲白檀の棚田の風景



▲廃材を使い建てる展望デッキ



ここでは、生産現場での取組をご紹介します。

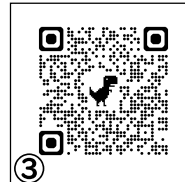
ChaOIフォーラムが結び付けた 異業種連携による静岡茶輸出の取組

～ChaOIフォーラムとは～

令和2年に静岡県が事務局となり静岡県茶業研究センター内に設立されたCha Open Innovationフォーラム（通称：ChaOIフォーラム）は、静岡県内の生産者、茶商、加工業者、飲料・機械メーカーや大学・研究機関、関係団体などから成るプラットフォームです。令和8年7月時点で、921の会員登録があり、会費等は無料です。

ChaOIフォーラムでは、コーディネーターが会員から寄せられる課題に対して無償で支援する他、メールマガジンによる情報発信、異業種間のマッチング、静岡茶の新たな価値創造や需要創出などに取り組んでいます。

ここでは、ChaOIフォーラムが結び付けた異業種連携による静岡茶輸出の取組をご紹介します。



- ①ChaOIフォーラムが入る
静岡県茶業研究センター
(画像提供: ChaOIフォーラム)
- ②静岡県拠点との意見交換
(画像提供: 磐田刃物株式会社)
- ③ChaOIフォーラムHP



▲SHIZUOKA MATCHAをアピール
(画像提供: 磐田刃物株式会社)

～実例のご紹介～

茶の生産販売を手掛ける山啓製茶株式会社が海外向けECサイトの刷新をChaOIフォーラムに相談し、磐田刃物株式会社を紹介されたことがきっかけとなり、茶の輸出拡大を目指す山啓製茶と抹茶の海外需要にビジネスチャンスを見出したい磐田刃物の思いが一致。連携がスタートしました。

山啓製茶が抹茶等の製造を担当し、輸出のノウハウに強みを持つ磐田刃物が販路開拓を進めました。両者が連携しながら海外市場への展開に取り組み、新ブランド「SHIZUOKAMATCHA」として、輸出事業の売上が拡大しています。



自社の水産加工で発生した魚粉を使ったお米づくり こめふく（焼津市）

焼津市田尻で水産加工業を営む山福水産株式会社では、鮪や鰹を加工する際に発生する不可食部の有効活用のため、魚粉をペレット化した魚粉肥料を活用したお米作りに取り組むこととしました。

近隣農家からお米作りを学び、藤枝市内に農地を借りて栽培を開始。後に、山福水産株式会社アグリ事業部を分社化し、令和8年4月に焼津市中港に「株式会社こめふく」を設立し、お米の栽培に取り組んでいます。



▲「株式会社こめふく」の代表 小長谷さん

栽培面積は47aで、きぬむすめを栽培しています。自社の魚粉肥料を使用しており、粘土質の土壌において水はけの改善が見られるほか、米の旨味にも良好な影響を与えているとのこと。

焼津漁港近くの飲食店「こめふく」において、自社で栽培したお米を使用した「おにぎり、海鮮丼、団子」などのメニューを提供しています。地域のつながりを大切にし、地元焼津市で生産・製造されたものを積極的に使用しています。

（全て画像提供：株式会社こめふく）



▲飲食店「こめふく」で提供しているおにぎり、団子

「みえるらべる」の研修会を開催しました

令和8年4月、焼津市内の農業関係者に対して、有機農業の概要講演及び農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」（通称：みえるらべる）の研修会を焼津市主催で行いました。

研修会では、「みえるらべる」の等級表示の算定に使う「農産物の温室効果ガス簡易算定シート」への入力を参加者に体験いただきました。講演後のアンケートでは、「みえるらべる」が消費者へのアピールになる、すぐ、今後活用したいなどのご感想をいただきました。



◀「みえるらべる」の詳細はこちら
【農林水産省HP】



▲研修会の様子

富士山の恵み、そのまま身体に



①ご本人
②畑で収穫した野菜（画像提供：ご本人）
③畝間の草取りを必要以上に行わない様子

橋本 耕佑さん（富士宮市）

水の浄化装置を販売する会社に勤めていましたが、コロナ禍で輸入が途絶えた場合の食料の供給体制に対する危機感を感じていました。

通勤途中で見かけていた有機栽培に取り組む農家を訪問したことがきっかけで、自然栽培に興味を持ち、令和5年4月に就農しました。

富士宮市に約140aの農地を借りて、米、じゃがいも、なす、ミニトマトなどを栽培しています。

農薬や肥料を使わず、草や微生物の働きを活かした土づくりを基本とし、畝間の草取りを必要以上に行わないことで、土壌生態系の維持に配慮した栽培をしています。

2ヶ国での栽培に挑戦しています

鈴木 美佐さん（御前崎市）

英会話講師及びボイストレーナーとして働いていました。出産を機に自分一人を始められる仕事を考えていたところ、義父が農業を営んでいたことから就農を考えました。

令和元年に静岡県立農林大学校へ入学し、令和2年の就農後は義父にイチジク栽培を学びました。現在は独立し、減農薬栽培に力を入れており、農薬の使用量約70%減を実現、高品質、減農薬を強みに自ら営業活動を行っています。

また、季節間ギャップを利用し、日本とニュージーランドでの2国間栽培にも挑戦しています。



①ご本人
②いちじくを使ったジャム
③収穫したいちじく（全て画像提供：ご本人）

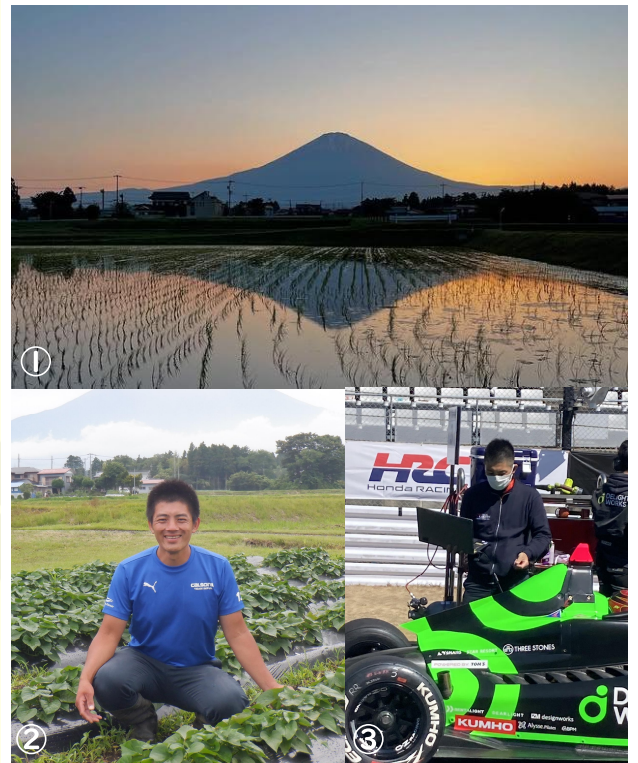
富士山と水田の美しさが魅力

安木 雄太さん(御殿場市)

22歳でレーシングエンジンメカニックを志し、神戸市から御殿場市へ移住後、富士山と水田の景観や地元産米の美味しさに魅了され、米づくりに関心を持つようになりました。

35歳で農機具の販売・整備や米の生産販売、農作業受託を行う会社へ転職し、メカニックの技術を活かしながら4年間の農業研修と水稻栽培の経験を積んだ後、新規就農しました。

現在は水稻及びサツマイモを栽培する一方で、レース関係者への農作物の販売・営業を兼ねたサーキットでのピット補助業務の副業を通じて、農業経営の安定化を図っています。



①水田に映る逆富士(画像提供:ご本人)
②ご本人
③ピットでの補助業務(画像提供:ご本人)

新規 就農者の部屋 ホームページの紹介

関東農政局静岡県拠点ホームページ「新規就農者の部屋」では、県内で新規就農をした方から、農業を始めたきっかけや苦労したことなどの経験談を伺い、ご紹介しています。

この度、新たに5名の方々の就農情報を追加しました。これから農業をやってみようかなと思っている方はもちろん、これまでに就農された方々も、どんな仲間がどんなところで活躍しているか、ぜひご覧ください。



熱海から自然の恵みを
未来へつなぐ



説田慶樹さん・有佳さん
ルッコラ、ケール等

甘いキンカン「こん太」
食べてみて



藤科勇さん
キンカン、茶、米

富士山の恵み、
そのまま身体に



橋本耕佑さん
米、ミニトマト等

「寿太郎みかん」に
魅了され農業の道へ



寺内篤史さん
みかん等

野菜作りと大学生活を
両立しています



松岡遥斗さん
なす、ピーマン等

詳しくはここから



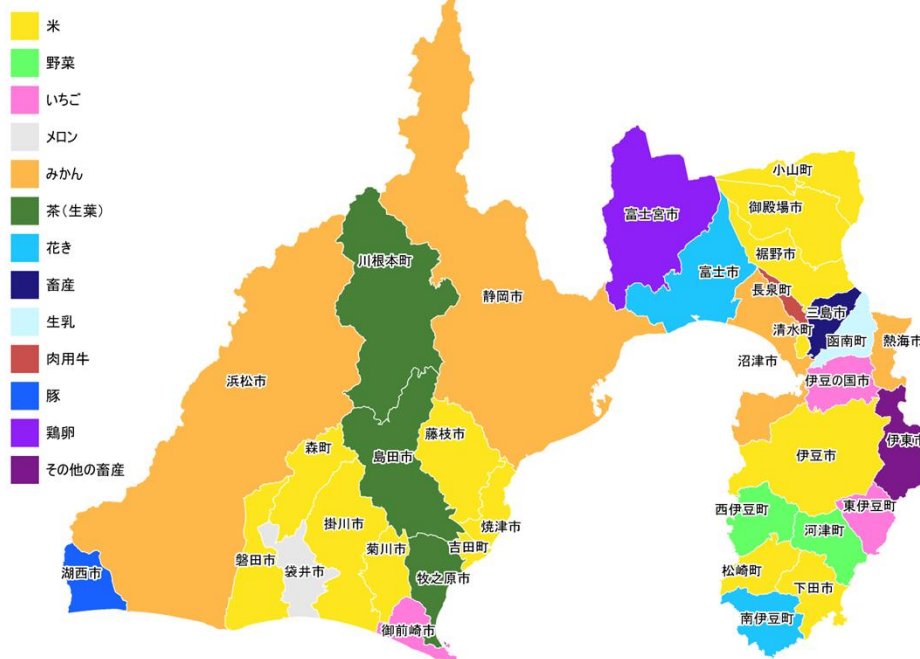
新規就農者の部屋

統計の部屋

令和6年市町村別農業産出額について

農林水産省では、令和8年7月、「令和6年市町村別農業産出額」を公表しました。
このうち、静岡県内各市町の産出額1位の品目について以下のとおりお知らせします。

令和6年市町村別農業産出額1位の部門(品目)



注) 品目表示ができない市町は部門で表示

出典: 令和6年市町村別農業産出額 (農林水産省)

令和8年産一番茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量(主産県)

農林水産省では、令和8年8月、「令和8年産一番茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量(主産県)」を公表しました。このうち静岡県の調査結果の概要及び最近の動きをお知らせします。

▶ 一番茶の摘採面積

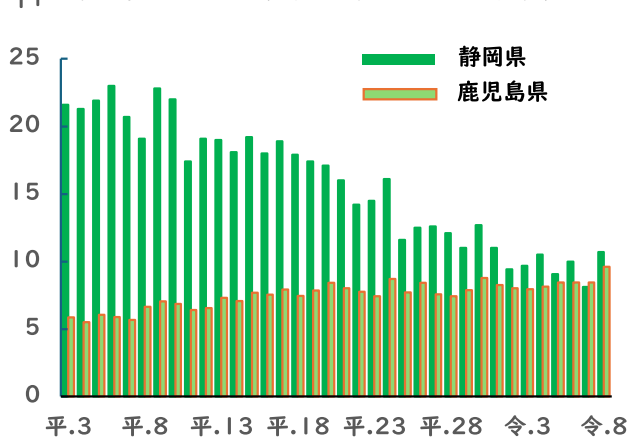
静岡県の摘採面積は1万200haで、前年産に比べ、300ha(3%)減少しました。

▶ 生葉収穫量及び荒茶生産量

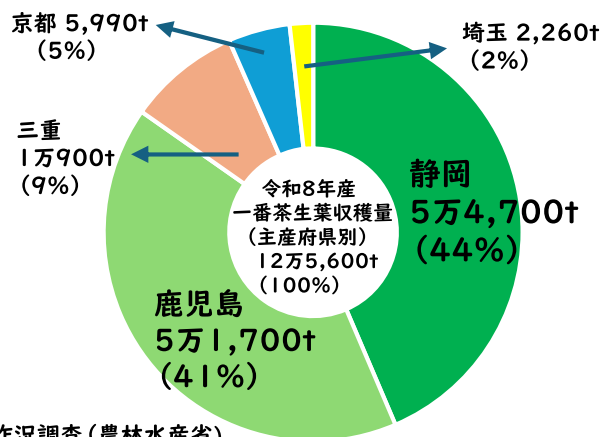
静岡県の生葉収穫量は5万4,700t、荒茶生産量は、1万700tで、前年産に比べ、それぞれ1万4,800t(37%)、2,580t(32%)増加しました。

これにより、静岡県が全国1位、鹿児島県が2位となりました。

荒茶生産量(静岡県と鹿児島県)



令和8年産一番茶の生葉収穫量(主産県別)



令和9年度農林水産関係予算概算要求の主な内容

『「強く豊かな日本」投資枠』も活用し、食料安全保障の強化等に向け、農林水産業の持続可能な成長を実現するための予算を要求しています。

注) 各事項の下段()内は、令和8年度当初予算額

○日本成長戦略等を踏まえた潜在成長率の引上げ

(『「強く豊かな日本」投資枠』活用項目)

○農地の大区画化等、共同利用施設の再編集約・合理化等、スマート農業技術・新品種の開発、農業機械の導入、輸出産地の育成等を支援

農業構造転換集中対策 2,904億円+事項要求(494億円)

○スタートアップの大規模実証、フードテック企業の海外展開等の取組を総合的に支援し、フードテックへの官民投資を促進

フードテックの推進 502億円(1億円)

○関係企業や生産者等が一体となった食農分野における環境負荷低減、気候変動への適応などGXの取組を支援

食農分野におけるGX投資拡大 48億円(-)

①食料安全保障の強化

○水田活用の直接支払交付金等の抜本的見直し、中山間地域等直接支払・多面的機能支払の見直し、新たな環境直接支払の創設

新たな水田政策の創設 3,565億円+事項要求(3,565億円)

○総合的・計画的な「農林漁業教育」をはじめとした食育の推進などによる農林水産業・農山漁村に対する国民理解の醸成、飼養衛生管理の向上や分割管理の推進、総合防除の推進などの家畜伝染病、病害虫等への対応強化

消費・安全対策交付金 57億円(19億円)等

○米・米加工品・米粉の需要拡大、麦・大豆の供給円滑化、種子の確保対策、野菜、果樹・茶、花き、薬用作物、養蜂等の生産基盤強化

米穀等安定生産・需要開拓総合対策事業 79億円(15億円)等

○家畜改良や施設整備・機械導入等による畜産・酪農の生産基盤強化、食肉処理施設の新技术導入等の実証、和牛肉需要確保、鶏卵安定供給

緊急時液卵加工流通円滑化対策事業 20億円(-)等

○堆肥の流通利便性向上等による国産肥料の生産・利用拡大、国産飼料の生産・利用拡大、飼料備蓄・流通合理化

肥料の国産化・安定供給 100億円(0.3億円)等

○輸出産地形成、サプライチェーン構築、商流開拓の体制・機能強化、知的財産の保護・活用、安定的輸入の確保、国際協力の推進

輸出産地・事業者の育成・展開 190億円(58億円)等

○合理的な価格の形成に向けた、コストや取引実態の調査、コスト指標の作成支援、フードGメンによる取引の監視等の実施

合理的な価格の形成 8億円(2億円)

○フードバンクの機能強化やこども食堂、物流の効率化等の取組への支援を通じた食品アクセスの確保

食品アクセス確保対策事業 6億円(0.2億円)等

○食品産業と農林漁業等の連携強化、食文化産業の中核拠点の創出

食品産業と農林漁業等の連携強化 73億円(1億円)等

令和9年度農林水産関係予算概算要求の主な内容

②農地・人材・技術の強化による農業の持続的・創造的発展

- 地域計画の実現に向けた農地バンクの機能発揮・協力団体との連携による農地集約化、新規就農者の育成・確保、担い手の機械等の導入

地域計画に基づく農地の集約化 291億円(174億円)等

- 農地の大区画化等、水利施設の計画的更新、ため池防災・減災対策、情報通信環境整備など生産基盤・生活インフラの整備・保全

農業農村整備事業<公共> 4,375億円(3,365億円)等

- スマート農業技術の開発・供給、サービス事業者の育成・活動、重要品種の育成・種苗生産、農研機構の研究開発・機能強化の推進

スマート農業技術活用促進集中支援プログラム 796億円(185億円)等

- ゲタ・ナラシ、収入保険、野菜価格安定対策、マルキンなどの経営安定対策の適確な実施

収入保険制度の実施(所要額) 532億円(327億円)等

③農村の振興

- 官民共創の促進による地域活性化、地域課題に応じた総合的な人材育成、農福連携、農泊など里業の推進、中山間地農業の振興

農山漁村振興交付金 100億円(70億円)

- 強固な侵入防止柵など柵整備の強化、クマ・シカ・イノシシの捕獲対策の強化など鳥獣被害防止対策の推進とジビエ利用の更なる拡大

鳥獣被害防止対策とジビエ利用の推進 199億円(100億円)

④環境と調和のとれた食料システムの確立

- みどり認定者の取組定着・拡大のサポートの強化、有機農産物の広域流通に向けた産地形成等のみどり戦略の加速化、食品容器包装の切替え等のプラスチック削減・資源循環促進

みどりの食料システム戦略推進総合対策 76億円(6億円)等

- 2027年国際園芸博覧会に向けた来場者、参加者等の安全確保、日本国政府出展等の運営、機運醸成、途上国の出展支援

2027年国際園芸博覧会に向けた対応 113億円(81億円)

令和9年度予算概算要求の注目事業をご紹介します！



水田活用の直接支払交付金等の抜本的見直し

- ①非主食用米・業務用米の生産性向上
酒造好適米等の生産性向上の取組を支援
- ②米粉用米・飼料用米に対する特別支援
実需者と農業者が連携する取組を支援
- ③麦・大豆・飼料作物等の生産性向上
水田・畑を問わず生産性向上の取組を支援
- ④産地交付金の見直し
施策効果の検証、配分方法の改善を行う。

多面的機能支払交付金

農業の有する多面的機能の維持・発揮や地域全体で担い手を支えることを目的として、農業者等で構成される活動組織が行う地域資源を適切に保全管理するための共同活動を支援。
共同活動が将来にわたり継続できるよう、外部人材の確保や先進技術の活用により作業の省力化を図る取組など活動組織の支援を実施。

令和9年度農林水産関係予算概算要求の主な内容

中山間地域等直接支払交付金

中山間地域等における農業生産条件の不利を補正することで、棚田地域を含む中山間地域等での農業生産活動を継続して行う農業者等を支援。

傾斜によらない不利性を有する農地に関し、協定農地の営農や共同活動の継続に地方公共団体が必要と認める場合に集落協定の対象農地へ位置付ける等を見直し。

果樹支援対策

(果樹農業生産力増強総合対策)

生産基盤強化に向け、省力的な樹園地への改植・新植、高温適応性のある品目・品種への転換、新たに安定的かつ効率的な苗木の生産・供給体制の強化の取組を支援。

クビアカツヤカミキリ被害に対応した改植や非寄主植物への転換に必要な技術習得等を支援。

拡充

大区画化等加速化支援事業

食料・農業・農村基本計画に基づき、初動5年間で農業構造転換を推進し、生産性の向上を図るため、農業法人等の農業者が自ら行う畦畔除去等の簡易整備による農地の大区画化等の取組等を支援。

経営拡大・独立就農育成事業

農業法人等が、新たに雇用した新規就農者に対して行う実践的な研修を支援。

(年間120万円、最長2年間)

①経営拡大推進タイプ

農業就業に必要な研修を実施する場合に支援。

②独立支援タイプ

独立就農に必要な研修を実施する場合に支援。

新規就農者チャレンジ事業

早期の経営発展を目指し、意欲的に取り組む認定新規就農者(独立・自営就農時の年齢が65歳未満)に対し、農業用機械・施設の導入等の取組を支援。

国費上限:個人1,500万円、法人3,000万円
補助率 購入:3/10以内

リース:定額(取得額相当の3/7)

新たな環境保全型農業直接支払交付金

令和8年度から、みどりの食料システム法の認定を受けた農業者を対象とし、5年後までに以下の①～③の取組の実施を要件とする。

①市場評価を高める

②生産安定化の取組

③デジタル化の取組

※同一圃場での同一取組の支援は5年まで。

拡充

茶・薬用作物等支援対策

(茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進)

てん茶や有機栽培茶への転換、改植・新植、輸向け栽培への転換、中山間地域における園地整備等を支援。農業機械等の改良・リース導入、リタイア園地等の円滑な継承のための園地整備、茶業版トレーニングファームによる新たな担い手の育成・確保を支援。

重要市場の商流維持・拡大対策事業

重要市場における輸出商流の維持・拡大に向けて、事業者が日本産品の競争力強化を図るために行う取組を支援。

有機農業連携・広域流通展開事業

有機農産物の産地間、産地・消費地間の連携(オーガニックブリッジ)や広域流通に向けた生産拡大、共同流通・加工体制の構築に向けた取組等を支援。

新規

果樹・茶生産飛躍的拡大事業

国内外の需要に対応した果樹及び茶の生産拡大を図るため「果樹・茶生産飛躍的拡大プロジェクト」として認定された参入企業や産地の取組について、省力樹形・多収品種等への大規模な改植・新植や園地整備等を支援。

新規

令和9年度

農林水産予算概算要求説明動画

農林水産予算概算要求に関する説明動画に加え、各動画に対応した参考資料を掲載しています。

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/budget/movie_r9yokyu.html



花と緑のあふれる暮らしを

／花き生産者に／

2027年3月19日より、2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）が横浜市で開催されます。静岡県拠点では、開催に向けて県内各地の花き生産者との意見交換を行っています。取材内容は「農林水産省GREEN×EXPO 2027【公式】note」及び公式X、公式Instagramに順次掲載しています。是非ご覧ください。

／取材しました／



「浜松PCガーベラ®部会長
山本 素志さん」
○主な栽培品目
ガーベラ



「箱根洋ラン園 内藤さん」

○主な栽培品目
マーガレット、ビジューマム、
ニューサマーデイズ・ステラ



GREEN×EXPO 2027 ～幸せを創る明日の風景～

2027年3月19日（金）から9月26日（日）まで、GREEN×EXPO 2027が神奈川県横浜市で開催されます。日本における最上位クラス（A1）の開催は1990年大阪花の万博以来、37年ぶりです。

1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、様々な展示や体験を通じてグリーン社会や自然との共生について考えるきっかけをもたらします。ご期待ください。



©Expo2027

2027年国際園芸博覧会
公式マスコットキャラクター
トウクントウク

詳細はこちら



チケットサイト



関東農政局 静岡県拠点

〒420-8618 静岡市葵区東草深町7番18号

お問合せ

地方参事官室 054-246-6121
統計担当 054-246-0612

アクセス

JR静岡駅より
徒歩：約25分（約1.8km）
バス：JR静岡駅北口10番のりば
県立総合病院方面「アイセル21」下車

